

Vol.

8

Contents

特集 震災から9周年	1
来館者からのご質問にお答えします	4
ひと未来セミナーを実施しました	6
Display Pickup「ブナ林の四季」	7

## 特集

# 震災から9周年

### ●追悼のつどい

平成7年1月17日午前5時46分に発生した阪神・淡路大震災は、瞬時にして多くの尊い命を奪い、住み慣れたまちを崩壊させました。

震災9周年となるこの日、兵庫県等の主催で「1.17ひょうごメモリアルウォーク2004」が実施され、ウォークの終点となる人と防災未来センター前にて追悼のつどいが行われました。

あいにくの空模様に加え、当時を思い出させる寒さの中、井上喜一防災担当大臣をはじめ、遺族代表の方等多くの方が参列し、慰靈のモニュメントに献花を行いました。

### ●炊き出し大会

追悼のつどいの翌日の1月18日、人と防災未来センター友の会では、ボランティアや協賛企業等の協力を得て、人と防災未来センター周辺において「あのときの温かさを忘れない」をテーマに「炊き出し大会」を開催しました。震災で学んだ助け合いやボランティアの精神などの大切さを改めて再認識してもらうため、震災での人ととの触れ合いの象徴的な行為の一つであった「炊き出し」を行うと同時に、餅つき大会や、子ども鼓笛隊、諸口あきらさん等のステージ演奏も実施されました。前日とはうってかわって晴天にも恵まれ約4,600人の人でぎわい、約4,000食の炊き出しは完売、ボランティアや地域の方々の交流が深まりました。

また、河田センター長の「次の大災害に備えて、家庭の防災」をテーマにした市民防災教室も実施されました。



追悼の辞を述べる井上防災担当大臣



### ●防災とボランティアのつどい

センターでは、1月18日に、防災とボランティアに関する普及・啓発を目的とした「防災とボランティアのつどい」を内閣府、兵庫県と共同で開催しました。

当日はポスター SESSION や各団体の発表の他、3つの分科会で討論が行われ、災害発生時におけるボランティア活動や自主的な防災活動の重要性に対する認識を一層深め、災害に対する備えの充実・強化を図りました。



ポスター SESSION



各団体の自由発表



分科会の様子（上3点）



早瀬昇氏講演



山崎主知子氏講演

## つどいの概要

<b>基調講演</b>	<b>「被災地から芽生えた新しい市民社会」</b> 早瀬 昇氏（社会福祉法人 大阪ボランティア協議会事務局長）
<b>第1分科会</b>	<b>「地域に生きる」</b> 山崎 主知子 氏（主婦・生活協同組合コープこうべ総代OB会員）
<b>第2分科会</b>	<b>「若者の人材育成」</b> コーディネーター：石井布紀子 氏（コラボねっと代表）
<b>第3分科会</b>	<b>「防災とは言わない防災」</b> コーディネーター：渡邊としえ 氏（日本災害救援ボランティアネットワーク研究員） <b>「防災ボランティアの可能性」</b> 田中稔昭 氏（日本災害救援ボランティアネットワーク理事長） コーディネーター：中川和之 氏（時事通信社） 村井雅清 氏（被災地NGO協働センター代表）

### ●第1回震災絵画展

震災9周年の時期をはさむ1月6日(火)から2月29日(日)にかけて、「ガレキの街から復興をめざして」をテーマに、震災絵画展を開催しています。

兵庫県では、平成7年10月から時間と共に散逸しがちな大震災の記録を残し国内外に伝えていくため、震災と復興に関する資料の収集・保存事業を実施してきました。

平成14年4月に人と防災未来センターが開館するにあたり、これまで収集してきた資料を当センターに引き継ぎ、公開していくこととなりました。

今回の企画展示では、被災地内外から資料として人と防災未来センターへ提供された約100点に及ぶ震災に関する絵画の中から、「震災直後の様子」、「ガレキのまちから立ち上がる」、「復興をめざして」の3つのテーマにそって、12点の作品を展示しています。作品を通じて、震災の体験や状況を様々な視点からお伝えします。

### 震災直後の様子

1995年1月17日午前5時46分、未曾有の大都市直下型の大地震－兵庫県南部地震－がまちを襲いました。多くの犠牲者や被害を出したこの阪神・淡路大震災により、見慣れたまち並みは変わり果て、美しい建造物はまたたく間にガレキと化し、いたる所で火災も発生しました。被災者自身、そして被災地の惨状に心を痛めた人たちが、一人また一人と自分がとらえた光景を残そうとしました。

### ガレキのまちから立ち上がる

日がたつにつれ、ガレキと化したまちの風景が少しずつ変化はじめました。避難所で生活していた多くの人たちのために仮設住宅が建設され、倒壊した建物で塞がれていた道路も次第に復旧してきました。粉塵と植音の中、まちの再建がすすみ行く様子が描かれています。

### 復興をめざして

人々のこころに明るさを取り戻そうと様々なイベントが催され、以前と同様美しいまち並みも再建されました。しかし、その一方で現在でも震災のつめ跡があちこちで見受けられるのも事実です。「復興」への道のりは、震災で傷ついたまちの記録として今後も描き続けられるでしょう。



森 恵（もり いさお）  
「倒れ落ちた壁」  
1995年1月～2月  
油彩・キャンバス 166cm×166.5cm



佐々木ミヤ  
「1995年1月17日午前5時46分の神戸長田」  
1995年1月～3月  
油彩・キャンバス 91cm×116cm



竹中清  
「ビルの谷間に建つ仮設住宅」  
1995年3月  
水彩・紙 32cm×42cm

# 来館者からのご質問にお答えします。

## 第1回：震災対策／防災未来館

当センターは阪神・淡路大震災の経験と教訓を伝えることをテーマにしていますので、来館者の皆様の関心も高く、多くの質問が寄せられます。

質問の中身も、「震度階の5と6が分割された理由は?(ちなみに地震の揺れや被害の程度をより細かく表現するためです。)」といった具体的なものから、中には、「今でも震災の時の夢を見ることはありますか?」というものまで、バラエティーに富んでいて、はっとさせられる事も多々あります。

今回は、それらの質問のうち、特に多い「震災対策」「防災未来館」についての質問に、センターの専任研究員が回答します。

### 震災対策について

回答:越山専任研究員

**Q 震度7に耐えられる家とはどんな家ですか?**

**A** 震度7といつても地震動の種類にはさまざまなタイプがあり、一概にどのような建物ということはできません。ただし、地盤がよいところに建てられた家、基礎がしっかりと考えられている家、構造上のバランスがよい家（壁の配置や重量の分布など）といった3つの条件を満たし、最近の建築基準法を守った住宅であれば、倒れる可能性は低いといえます。

**Q 耐震基準等がいわれているけれど、基準を満たしていなかつたら…?  
既設の木造住宅の補強の方法はどうすればいいのでしょうか?**

**A** まずは耐震診断を受けてみて、どのような危険性があるかを確かめる必要があります。当然耐震補強を行うことが必要となります。この点はきちんと信頼できる専門家に見てもらうことをおすすめします。最近、都道府県や市町村で耐震補強診断に対する補助などがありますし、業者のリストなども教えてもらえると思いますので是非活用下さい。またすべてを補強できない場合でも、重要な部分だけでも耐震補強することをおすすめします（例えば寝室や居間など）。

補強の方法については、対処療法的におこなうのではなく、家全体の構造全体から見て判断することが重要になってきますので、専門家の意見をきちんと踏まえた上で行って下さい。

**Q 「すじかい」の法的定義について教えてください。**

**A** 「すじかい」について、法律（建築基準法）では以下のように定めています。

- ・積載荷重や雪の重さ、風、水圧、地震などの震動に対して、構造上主要なものとして位置づけられています。（第一条）
- ・木造建物の強度を考えるために、用途に応じたサイズが規定されています。（四十五条）
- ・構造上バランスのよい平面となるように、壁やすじかいをいれることができます。（四十六条）

## 防災未来館について

回答: 福留専任研究員

**Q 防災未来館を設計したのは誰ですか？このデザインの意図は？**

**A** 防災未来館は設計コンサルタント会社が設計しました。「記憶し・学び・伝える活動体」、「建築の展示化・展示の空間化(\*)」、「創造的震災復興のシンボルコア」をコンセプトとして、1辺43mの「ガラスの結晶体」をイメージしています。時間の流れに左右されないシンプルな形態は震災を風化させない強い意志を表現し、4面の凹部が拡大するデザインと太陽電池で光る143個の発光ダイオードの点滅は小さいものが大きいものへ拡大発信していく姿を重ねています。

(※) ガラスに映った復興していく神戸の街並みを観ることができます。

**Q 防災未来館は阪神・淡路大震災程度の地震が来ても耐えられますか？**

**A** 阪神・淡路大震災と同じクラスの地震には耐えられる予定で設計されています。建物のコーナー部分に制震装置（オイルダンパー）が設置されています。（右の写真参照）



**Q 人と防災未来センターは、避難所になりますか？備蓄管理状況について教えてください。**

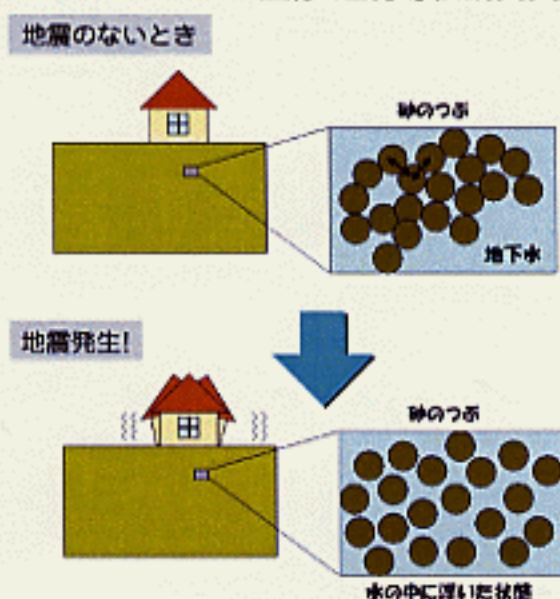
**A** センターの災害時の機能は専門家派遣や情報収集等なので、避難所となることは想定されていません。そのため、センターとしての災害への備えは、自家発電機（約1日間稼働）と雨水貯留（建物の周辺池を含めて約170トン）と、センターの機能維持のためのものとなっています。

**Q センターの下に活断層は通っていますか？また、埋立地に建っているけれど液状化は起きますか？**

**A** 神戸市には六甲断層等の断層がありますが、センターの真下の活断層はこれまで確認されていません。また、この場所は大正7年頃に埋め立てられました。阪神・淡路大震災の際には液状化現象(\*)による建物倒壊の被害は確認されませんでした。

## 液状化現象とは？

監修: 越村専任研究員



地震の揺れによって、地中の土や砂が泥水のようになってしまい現象です。

地震が起きていない時は、砂のつぶが家の重みを支えていますが、地震が起きると、砂が水に浮いた状態になって、家の重みを支えられなくなってしまいます。また、砂は水より重いので、砂のつぶは沈み、水が上がってきます。そのため、泥水のようになってしまいます。

液状化は埋立地のような水分の多い土壤で発生します。最近では、埋立地では土壤を絞り固めて地盤改良するなどして、液状化対策がとられています。



# ～ひと未来セミナーを実施しました～

私たちがいま生かされている環境を学ぶ。私たち自身が、自然の一部であることを実感する。そして一人ひとりのこころに芽生える想いを伝えていく。

生きていく上で欠かせない3つのテーマをステップに「ひとの未来」について考えあう、そんなセミナーを開催しました。

第1回は、菊地直樹氏（姫路工業大学講師、兵庫県立コウノトリの郷公園研究員）を迎えて、「いきる」ということをテーマに、コウノトリの野生復帰を目指す県立コウノトリの郷公園の取り組みを通じて、ひとつの種が生きていくことと、地域の自然環境や人間の営みがどのようにつながりあっているのかについて考えました。

11月22日(土)実施  
参加者 22人



## 「いきる」ということ

菊地直樹氏

第2回は、西元和夫氏（龍谷大学・奈良大学講師（宗教哲学））を迎えて、「いのち」をかんじる」と題して、鼓動、呼吸など日頃は意識することの少ない人間の営みを、参加者同士で相手の鼓動を聞いたり、目を閉じて手をつなぎ感触を確かめたりするボディワークを通じて、「いのち」を感じ、生と死について考えました。

12月6日(土)実施  
参加者 27人



## 「いのち」をかんじる

西元和夫氏

第3回は、「こころ」をつたえる」をテーマに自然写真家である円満堂修治氏によるスライドショーを楽しみました。六甲山の美しい自然や神輿をかつぐ子どもたちの写真にこめられた円満堂氏のこころを感じながらひとの未来に想いを馳せました。

12月20日(土)実施  
参加者 42人



## 「こころ」をつたえる

円満堂修治氏

3回のセミナーを通じて、目に見えない大切なものをどのように感じ、どう伝えていくのかを考えることができました。ひと未来セミナーは今後も継続的に開催していく予定です。



今回は、「ひと未来館」3階のブナ林の四季をピックアップします。

ブナの森へようこそいらっしゃいました。こちらでは「太郎」と名付けられた樹齢200年のブナの木を中心に、ブナの林の中の様子を四季を通じてご覧いただいています。

「倒木更新」。ブナは倒木となって朽ち、そこから新しい命が生まれてきます。倒れることによって、成長するために必要な光や場所を新しい命へと手渡しているのです。自分自身も朽ちて土となり栄養となって受け継がれてゆきます。「死」というものは、「生」の始まりなのではないでしょうか。

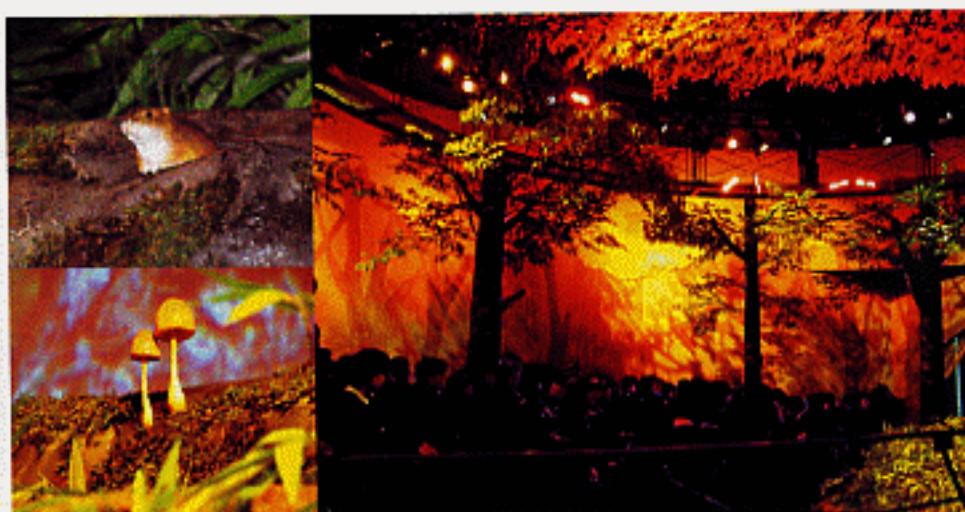
森の中の3つの環。「倒木更新」「食物連鎖」「水の循環」は目にはあまり見えないものですが、私たちの住む地球の大切な自然の流れです。ブナの森の中を教科書にして、それを感じることは、ひょっとすると案外簡単なことなのかもしれません。ですが、それを自分のこととして置き換えてみるとどうでしょう。あまり身近に感じられないのではないのでしょうか。

自然って何なのでしょう。生きるってどういうことなのでしょう。生まれ、精一杯生きて、死んでゆく自然の大きな流れの中の一つの生き物、「人間」。受け継がれる命、受け継がれる想い。皆様はどのように想われますか？ブナの森の中を覗くように、どうぞ自分の心の森を覗いてみてはいかがでしょうか。

こちらのエリアでは大型スクリーンの他に4つのほこらがあり、約6分間のいろいろな映像を楽しむことができます。絶滅しかかったコウノトリを自然に還そうという兵庫県と豊岡市の取り組みを通じて、食物連鎖の大切さを伝える映像や、地球上に生命が誕生してから約38億年、絶滅した命をたどる旅などがご覧いただけます。

また、「ほこら」の側には小さな覗き穴もあります。さて、葉の影に隠れている虫たちは何匹いるでしょう？皆様のお越しをお待ちしております。

～私たちがご案内します～



インストラクター  
正 まき子



インストラクター  
北村 满寿美

## 家具の配置を考えよう。

阪神・淡路大震災では、突然の激しい揺れで家具が転倒し、押しつぶされたり逃げられなくなつた方がたくさん居られました。家具の配置や固定はとても重要です。

寝室にたくさんの家具を置かない

家具の上に物をのせていないか

退避路がふさがっていないか

家具は固定されているか

火元付近に燃えやすいものがないか

照明や額縁など物が落ちないか

窓際などに鉢などを置いていないか



食器棚が開いて中の物が飛び出さないか



## INformation

### 「友の会」会員募集

人と防災未来センター友の会は、センターの活動に協力し、積極的に利用して防災対策の大切さといのちの尊さを学習しようとする人々の親睦を深め、センターと連携しつつ、社会の防災力の向上に寄与することを目的に設立されました。

どなたでも入会できますので、たくさんの方の入会をお待ちしています！

#### 会員特典

- センターへ無料で入館できます。
- センターの最新情報が手に入ります。
- 友の会のイベントに参加できます。

#### 年会費

個人会員 3,000円

法人会員 一口 50,000円

郵便振替：00940-2-160211

口座名：阪神・淡路大震災記念  
人と防災未来センター友の会

※ 10月以降に入会された場合、半額になります。

MiRAi

### [人と防災未来センターニュース] Vol.8

発行／阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

#### お問い合わせ先



阪神・淡路大震災記念

**人と防災未来センター**

神戸市中央区諭浜海岸通1-5-2 TEL.078-262-5060  
事務局／TEL.(078)262-5060  
観覧案内／TEL.(078)262-5050  
ホームページアドレス／<http://www.dri.na.jp/>

●開館時間 9:30～17:30(入館は16:30まで)  
ただし、7～9月は9:30～18:00  
(入館は17:00まで)  
金・土曜日は19:00(入館は18:00まで)

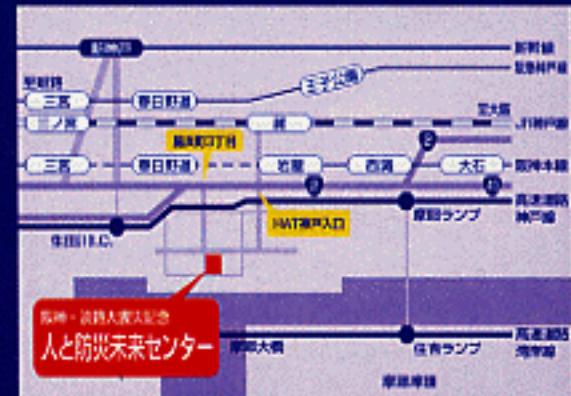
●休館日 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日)  
年末年始の12月31日と1月1日  
※ゴールデンウィーク(4月28日～5月5日)期間中は無休

#### ●入館料金(団体は20名以上)

区分	防災未来館		ひと未来館		両館とも	
	個人	団体	個人	団体	個人	団体
大人	500円	400円	500円	400円	800円	640円
高校・大学生	400円	320円	400円	320円	640円	510円
小・中学生	250円	200円	250円	200円	400円	320円

※兵庫県内の小・中学生はココロンカードを提示すれば無料。  
兵庫県内在住の高齢者・障害者は上記の半額です。

#### 交通マップ



■交通 鉄道／阪神「岩屋駅」から徒歩約8分、JR「御影駅」南口から徒歩約10分。

阪急「王子公園駅」西口から徒歩約15分。

バス／JR・阪神・阪急・神戸市営地下鉄「三宮駅」から約15分。

神戸市営バス

三宮駅前から約1時間間隔で運転。

阪神電鉄バス

三宮駅前から約30分間隔で運転。

車／阪神高速神戸線「生田川ランプ」から約3分、阪神高速神戸線「摩耶ランプ」から約4分、阪急・阪神・JR「三宮駅」から約10分。

■駐車場 有料駐車場(普通車100台駐車可能)このほか近隣にも駐車場があります。

#### ■バス待機所

予約制(26台)無料

銀杏予約時に待機所利用のご予約をお願いします。

ご意見・ご感想は事務局まで。